

2018年度
学校関係者評価委員会第2回議事録

日時：2018年11月14日（水）18時30分～20時00分

場所：東京 YMCA 医療福祉専門学校 15 教室

出席者： 吉野たけし氏 小泉 昌広氏 永井 純氏 山野 晴雄氏
列席者： 八尾 勝 倉持 有希子 中浦 俊一郎 村上 剛 林 恵子

I. 聖書日課

Tokyo YMCA Daily Message の本日の聖句とその解説を村上副校長が朗読した。

(ペトロの第二の手紙 3章8～9節)

II. 議事 吉野議長の司会により議事が進められた

1. 前回の「記録」と「まとめ」の確認

八尾校長が前回の記録のディスカッションの部分を朗読した。

2. 学科ごとの今後のアクション案

(1) 介護福祉科 倉持学科長

①国家試験の合格率を上げる

学習支援演習でテストを繰り返し行う事で力をつけてゆく。その他グループ学習、点数が伸びない学生達には寺子屋学習を行い、確実に点数が取れるところで点を取り、合格まで導きたい。

②地域つながり隊

今年度からはじめた試みで、ボランティア活動を通して地域とつながることを目的としたサークル活動です。現在は「ひらや照らす」の認知症カフェに毎月学生が参加し、そこで色々な人と出会い、話を聞いて、地域とつながる大切さを学んでいる。来年の3月には学校（YMCA）で映画上映会と食事会を企画中。YMCAを知ってもらえる機会にもなる。ゆくゆくはOT科の学生にもつながり隊の輪を広げてゆきたい。

*「ひらや照らす」とは、国立市を愛し、終生の地として移住された故吉川照子さんの遺言により「老人福祉の目的で利用する」等を条件に市へ寄贈された素敵な庭付きの日本家屋。地域の誰もが気軽に立ち寄り、お茶を飲んだり、ゆっくり話をしたりできる場所として利用されている。

(2) 介護福祉科へのご意見

山野委員：私が入り込んでいる地元の集まりにも杏林大学、ルーテル大学、ICUの学生などが参加してくれていて良いつながりを持っているので、YMCAも是非続けてほしい。

永井委員：つつい急性期に目が向きがちだが高次脳の方や就労支援、在宅ケアが必要な方のことを考えると、家族とか地域に目を向けることは大切だと思う。

吉野委員：多様性という視点からもすばらしい。ひらや照らすでの学びが色々な方面に広がる事を期

待する。

(3) 作業療法学科 中浦学科長

①国家試験の合格率を上げる！

教員がとにかく学生に関わり、勉強のやり方がわからないと言う学生と向き合っていくようにしている。またグループ学習の方法も行い、現在は良い形で進んでいる。

②相互学習に力をいれる！

地域とのつながりを意識してボランティアを積極的に行うよう促している。今後、地域の居場所作りができると良いと考えている。

③学生募集への工夫

高校の「人間と社会」の一環で「16歳の仕事塾」の講師として登録し（中浦が）OTという仕事を高校生に伝えている。16歳の仕事塾では様々な分野の人が登録し、その回ごとにワークショップと講師の話を組み合わせて高校生に仕事のイメージを持ってもらうのが目的である。また、くにたち市民祭にOT協会のブースを出した結果、400名の参加があった。今後、学生達も巻き込んで参加することでYMCAも宣伝してゆけたら良いと考えている。その他にも国立市の地域ケア会議に参加（中浦）している。高校生の進路ガイダンスには教員達も積極的に出てゆきたい。

(4) 作業療法学科へのご意見

山野委員：高校の先生との関係を作るには、授業を行っている教員が訪問に行くことは効果がある。

継続的に行うことが大切である。また「人間と社会」をうまく利用して募集につながると良い。

小泉委員：地域とのつながりを通して学生の明るさ、元気を地域に伝えていくと良い。

永井委員：主体性、自主性に火がつくにはどうやってスイッチを入れるかが大切である。16歳の仕事塾の話聞いて、このやり方は国試にもつながるのではないかと思った。国試合格までのイメージができると学生達にも火がつくのではないか。

(5) PDCAサイクル研修について

八尾校長と村上副校長より以下の通り報告があった。

前回の委員会でいただいたご意見の中にあつた「募集と教育を切り離すべき」に対しての取り組みとしてPDCAサイクルをきちんと理解し、実行するための研修を行うことにした。PDCAサイクル協会の座長でいらっしゃる安岡高志先生を講師としてお招きし、1から学び、その方法論を理解し、我々の課題を「学生募集」と定め実験的に行うこととなった。

(6) その他ご意見等

永井委員：ISOを通すため品質管理を行っている。結果を確実に出し、それを報告しなければならないための評価をすることはできている。大変だがこのシステムを回すための工夫と努力が病院運営の質を保つために役立っている。

八尾校長：専門学校は評価システムがまだまだである。今後PDCA研修を学校運営に活かしてゆきたい。

山野委員：YMCAは第三者評価をやっているが、世の中や高校の先生もその大切さを認識していない人が多くてはがゆい。大学より専門学校に行った方が伸びる学生はたくさんいるはずである。YMCAは多摩地区の中でしっかり学生を育て、社会に出していくことに今後も力を注いで欲しい。

吉野委員：HPの資料請求者の分析をやると良い。ページごとのリピート率などを調べると力を入れるべきページがわかってくる。我々の感覚と若い学生達はかなり違うことがあることがわかった。また、在校生に直接聞いて情報を得ることも効果的である。私の学校では毎年入学した学生から情報を得ている。そうすると思わぬサイトから誘導されてきていることに驚く。例えば、ファッション、専門で検索しているのではなく、ユニクロのサイトから誘導されてきたりというケースがある。

村上副校長：その点が弱いと自覚している。今後IT室の協力を得ながらHP分析を進めてゆきたい。

永井委員：うちの病院の場合は高齢者が多いため、HPでうちの病院を選ぶケースは少なく、8割～9割は口コミである。来院者へのアンケートの最後に「良い」と答えてくれた人に病院のパンフレットを渡し、口コミが広がるように取り組んだ結果、効果があった。

Ⅲ. 閉会のあいさつ

八尾校長より、今年度も本委員会において数多くの示唆をいただいた事への感謝、今後これらを学校改善に結びつけたいと思っている旨、本日で2018年度の学校関係者評価委員会は終了することが述べられ、委員の方々への感謝の辞が述べられて閉会となった。

記録：林 恵子